

インフォメーション

問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター

TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

サポセンスタッフから

サポセンとは

サポセンは、「自分たちの住むまちを、もっと良くしたい」そんな市民の自発的な活動を応援する施設です。現在活動している人だけでなく、これから活動を始めたいと思っている人、ちょっと興味はあるけど…という人もぜひご活用ください。困ったことや分からないことがあったら、遠慮なくサポセンスタッフにお尋ねくださいね。

一歩、中に入れば…

情報と新たな出会いが待っています

1階のマチノワひろばでは、市民活動団体から受け付けたイベントチラシやニューズレターなど、様々な情報を見ることができ、お持ち帰りもできます。仙台のまちにどんな人、どんな団体がいて、どんなことをやっているのか。情報収集ができます。

また、サポセンでは、いろいろなイベントや講座も開催しています。市民活動者によるワークショップ、活動の様子を紹介するトークイベント、活動に関わる人たちが集う交流会など、まちづくりに関わる多様な市民が出会い、交わる機会もあります。肩書きも世代も越えて交流し学び合う中で、何かをはじめるキッカケを掴んだり、モヤモヤしていた想いがカタチになっていきますよ。チラシの他、ホームページやツイッターで告知しますので、チェックしてみてください。

一歩を踏み出すために…

「相談」ができます

想いはあるけど、まとまらなくて人に伝えられない。アイデアはあるけど、次にどうしたら良いか分からない。活動を始めたけれど、うまくいかない。そんな時はサポセンに「相談」してみてください。想いを整理して、具体的なステップを描くお手伝いをします。



市民ライターや学生記者が、仙台の市民活動団体やワクワクビト取材しています！

▶市民ライター
http://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1
▶情報ボランティア@仙台
https://ja-jp.facebook.com/jyoho.volunteer.sendai

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

[ぱれっと読者アンケート] サポセンホームページからアクセス
いただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



発行 仙台市市民活動サポートセンター
発行日 2018年4月1日
編集 特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター
デザイン PEACE Inc.
編集人 太田貴 菅野祥子 松村翔子 宮崎真央 嶋村威臣
発行部数 3000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ / 地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分

[HP]http://www.sapo-sen.jp [Blog]http://blog.canpan.info/fukkou/ [Twitter]@sensapo

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日]

ぱれっと 4

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2018 No.224

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）にいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

今月の
ワクワク
ビト森のようちえん 虹の森 代表
しみず ふゆね
清水 冬音 さん (30)自然を舞台に
子どもたちを見守り育む

自然の中で、初めは戸惑いながらも、やがて虫や植物に惹きつけられ、自然をおもちゃに工夫して遊び始める子どもたち。清水さんは、晴れの日も雨の日も、自然の中で遊ぶ子ども自身の時間を大切に、自然の中で遊ぶ子ども自身の時間を大切にする、「森のようちえん」の考え方を中心に保育を行います。子どもの思いもよらぬ発想の面白さには驚きの連続です。「それぞれの子どもが感じた事を大切に」と、今日も外へと出かけていきます。

大学時代は、神奈川で里山をフィールドに生きものと人の暮らしについて学び、大学院の研究テーマを突き詰める中で「森のようちえん」という考え方に出会いました。2011年8月には、震災ボランティアとして宮城県を訪れ、研究を進めながら幼児教育と自然体験の関わりへと関心を深めます。

「失敗を恐れず、自ら考え、判断し行動できる人を育てたい」と清水さん。東北地方ではまだ少ない「森のようちえん」がさらに広まっていくことを願いつつ、明日も子どもたちの傍らで成長を見守ります。

取材・文 市民ライター 佐々木 眞理

森のようちえん 虹の森

Mail office@nijinomori2012.com TEL 022-702-5684

2012年に発足した「森のようちえん 虹の森」は、子どもたちを自然の中でそれぞれのペースで遊ばせ、見守りながら育てる活動です。外遊び、畑づくり、生きものとの触れ合いなどを通し、子どもたちが自分で物事を考え判断するための心の土台と感覚を培うことを目指します。未就学児、親子、小学生のクラスがあり、活動場所は多賀城跡、泉ヶ岳が中心。他にも栗駒山中腹に出かける活動もあり、おもちゃを作るワークショップなども行っています。

特集

マンションの将来設計は、

住む人だけでなく、まちの未来を守る

マンションの将来設計は、 住む人だけでなく、まちの未来を守る

今仙台には約1400棟のマンションがあり、その中で築30年以上経過したものは約400棟。街中に集中しており、一番古いもので築48年です。2030年には築30年以上のマンションは1000棟になると試算されています。古くなれば大規模修繕や解体、建て替えをしなければ住み続けることは難しく、外壁が落下するなど周囲にも影響を及ぼしてしまうかもしれません。しかし、建て替えや解体には、多額のお金だけでなく住民5分の4の合意が必要などハードルが高く、実現例はまれです。毎年新しいマンションが建てられる仙台で、「マンションの生涯設計」を手助けする官民の取り組みがあります。

素敵な仙台の街並みに
スラム化した
マンションは残したくない

一般社団法人宮城県
マンション管理士会

会長

たかはし えつこ
高橋悦子 さん

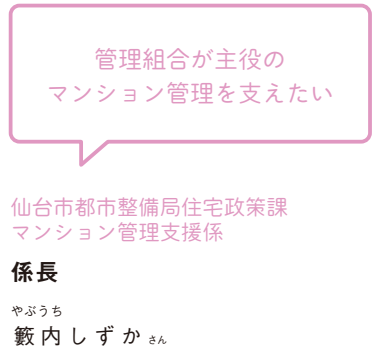


管理組合が主役の
マンション管理を支えたい

仙台市都市整備局住宅政策課
マンション管理支援係

係長

やぶうち
数内しずか さん



実は複雑なマンション

マンションには、住もうえでとても重要な「建物の区分所有等に関する法律(区分所有法)」があり、分譲マンションの各住戸の所有者のことを区分所有者と呼びます。区分所有法に定めがないものについては民法の定めが適用されます。

マンション管理士は、「マンションの管理の適正化の推進に関する法律(マンション管理適正化法)」に基づき、2001年にできた国家資格を持つ人です。マンション管理組合、区分所有者などから寄せられる、マンション管理・運営の相談に対して、専門家の立場からアドバイスし、解決に向けて支援します。

一般社団法人宮城県マンション管理士会(以下、管理士会)は2002年に設立、マンション管理セミナーや無料相談会、管理士派遣などを行っています。「マンションを人に喩えると分かりやすいです。いつ・どんなライフイベントがあって・いくら必要かといった生涯設計がマンション管理においても重要です」と管理士会会長の高橋悦子さん。そこでマンション管理士は情報を整理して提示し、管理組合が自分で考え選択し管理できるよう支援しています。

仙台市都市整備局住宅政策課マンション管理支援係(以下、支援係)は、2016年4月に新設されました。係長の数内しずかさん、

主任の大宮麻子さん、技師の鈴木啓太さんの3人でマンション管理に関する調査や相談、耐震、防災など、マンションに関する事業を担っています。

積み重ねてきた関係性

マンションの管理相談には、さまざまな知識が必要になるため、管理士会はマンションに関連する業務を行う住宅政策課にコンタクトし、情報や課題を共有して、いざという時には協力できる関係性を構築してきました。

高い確率で再来が予測されている宮城県沖地震に備え、マンションの耐震に関する相談や啓発は重要項目でした。耐震化調査はしているものの、調査票への回答がないマンションがあり、管理士会も住宅政策課も気がかりでした。管理士会は、マンションが抱える課題を明らかにし適切な支援策を考えるため市民協働事業提案制度を活用し、2015年に旧耐震基準かつ未調査のマンションをすべて訪問調査。住宅政策課も情報提供など訪問調査のバックアップをしました。調査から、合意形成のための管理組合がない、理事長が誰か分からない、修繕等のために必要なお金を積み立てていないなど、マンションが抱える課題が分かりました。



一般社団法人宮城県マンション管理士会
〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉一丁目5-13 三矢ビル6階
TEL 022-224-3630 受付時間: 10:00 ~ 16:00 (土・日・祝を除く)
HP <http://www.miyagimk.com/>
仙台市住宅政策課マンション管理支援係 TEL 022-214-8306

また、マンションの生涯設計を考えてもらうため啓発セミナーも実施しました。将来を考えるきっかけとなる講話、事例紹介、市から支援制度の情報提供のほか、耐震補強工事を行ったマンションを実際に見学し、講師やマンション管理士と意見交換できる交流会も設け、参加した管理組合の疑問に答えました。

発展するマンション管理支援

住宅政策課ではマンション支援に特化した係を設け、マンション管理組合による適切な管理運営を支援する体制を整えました。調査結果をもとに、管理士会と支援係は支援モデルの構築に取り組み、2017年からは相談員派遣制度を拡充しました。「マンション管理の主役は管理組合や区分所有者の方。その方々が使いやすいように、今後も制度をブラッシュアップしていきたい」と、支援係の数内さん。高橋さんは「マンションは、地域の中で単独で存在しているわけではありません。マンションが適切に管理されることは、まちづくりにおいても重要です」と、マンションとまちの将来を見据えます。(取材・文 菅野祥子)

ここチェック

ようこそ仙台へ！
転動族のオアシス～仙台転動族の会～

転動により知り合いもいないまちに来て心細い方、「仙台のことを知りたい、友達を作りたい、仙台を楽しみたい!」と思っている方に向け、お花見・芋煮会など仙台・宮城を楽しめるさまざまなイベントを開催しています。転動族に限らず新転入者の方もぜひ!とともに仙台で楽しく生活しましょう。
HP <https://sendai-tenkinzoku.jimdo.com/>
facebook <https://ja-jp.facebook.com/sendai.tenkinzoku/>



ゆるく
新しく
ふみだしませんか

ゆるてっく仙台では、IT技術やWEBデザインを学びたいと思う人たちを対象に、最新の技術やデザインについて気軽に楽しく学べる勉強会を開催しています。仙台市内で月に1回程度開催される勉強会には、世代や性別、技術のレベルに関係なく毎回約15人が参加しています。難しく、堅苦しいイメージがあるITの世界ですが、会話の弾み和やかな雰囲気の中で、パソコンの基礎から、HP作り、LINEスタンプ作りなど、参加者それぞれの求める技術が学べます。

主催の竹中陸さんは、WEBデザインやアプリ制作の仕事をする中で、やりたいことがあるのに、なかなか踏み出せない人たちの存在を知りました。自分のノウハウを生かし、参加者のやりたいことのお手伝いをするを目的に、2016年9月に団体を立ち上げました。



▲勉強会を開催する竹中さん(右前)

IT技術の進歩と共に、ニーズも増加しました。どんな技術を身につけ、どんなことに生かしたいのか?参加する人に目的があれば、竹中さんがアドバイスしてくれます。技術を学ぶうちに、共通の目的を持った新しい仲間にも出会えるかもしれません。

自分にとって未知の世界に踏み出すときは、勇気が必要です。思い切れず踏みとどまるよりも、「ゆるく」踏み出すこともいいのかもしれないと感じました。

■連絡先

ゆるてっく仙台

HP <https://www.facebook.com/yuruteck/>

お立ち立本

RYU PROJECT 震災のあの日から

著者:NPO法人HERO 発行者:藤原直
発行所:株式会社金港堂出版部

東日本大震災で被災した子ども達に笑顔を届けるべくヒーローショー等を行うNPO法人HERO。本書は、同法人の活動開始までの歩みを記した小説です。震災を機に立ち上がった人たちの想いを、手に取るように感じることができます。一つの活動が始まるまでのストーリーを追体験できる一冊です。



コトナジメ

県内の環境活動を支援!
「一箱古本市 定禅寺ブックストリート+もったいないエコ市」

仙台のボランティア団体「あったかこころねっと」では、読み終わった本や、もう使わない物のリサイクルを促進させるためにフリーマーケットイベントを開催します。モノをリレーすることで環境に配慮したエコ活動へ参加してみませんか?

開催日:4月29日(日・祝)※雨天時は翌日開催

問い合わせ:あったかこころねっと

TEL 022-211-4042 Mail attakakokoronet@yahoo.co.jp

HP <http://attakakokoro-net.jimdo.com>

